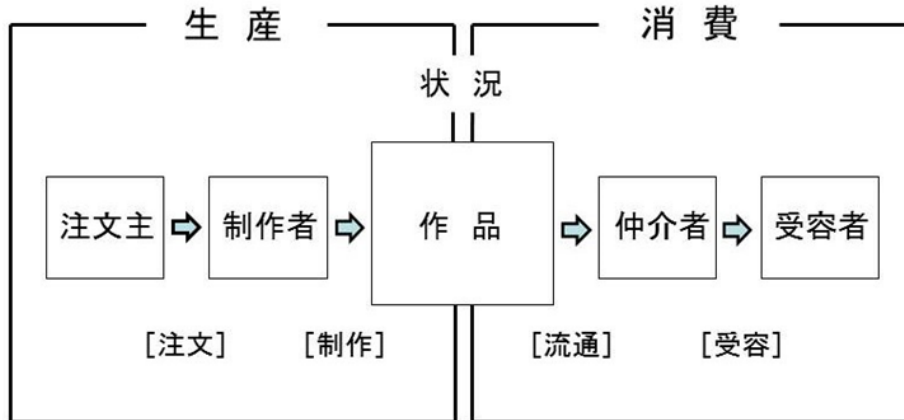


令和4年度 事業報告書
(自令和4年8月1日至令和5年3月31日)

公益目的事業 I

一般の受容者をはじめとして、制作者や、研究者・学芸員・ギャラリスト等の文化仲介者の活動を支援することによって、美術を中心とした視覚文化の振興を図るために、次の事業を行った。



視覚文化の構造

1. 機関誌『須田記念 視覚の現場』の発行

機関誌『須田記念 視覚の現場』を年間2冊発行し、全国の主要図書館、美術館、美術系大学図書館、友の会会員などに無料で配布した。

2. 視覚文化に関する調査研究

須田ロールキャンパスについて、一般財団法人の事業として予定していた三之瀬御本陣芸術文化館との共同研究を実施した。また、視覚文化研究会で、「視覚文化における写真の役割」と「東アジア絵画の近代」をテーマとする調査研究を行い、その成果を次年度の『美術フォーラム21』に掲載してフォーラム会員に無料で配布する準備を行った。

3. 視覚文化連続講座の開講

「視覚文化に分け入る」という統一テーマのもとで、各界の専門家8名による連続講座を開講し、広く受講者を募集した。

4. 視覚文化ワークショップの開催

本財団が委嘱した研究員5名をファシリテーターとして、制作者や仲介者が、領域横断的に意見を交換するワークショップを5回開催し、ハイブリッド方式で公開した。

5. 展覧会の支援

一般財団法人の事業として予定していた「生誕100年 清水九兵衛／六兵衛」展（京都国立近代美術館）への支援を実施した。また、各地の美術館・博物館等が企画する展覧会かつ／あるいは新進アーティストが企画するギャラリー等での展覧会に対して開催経費の一部を支援するために、10月に公募を行い、5件の支援を決定した。

6. 展覧会の企画

本財団が企画した次の2つの展覧会について、各地の美術館等と協力して実行委員会を組織し、(1)については、3月に飯田市立美術館でスタートし、(2)については、10月に開催すべく準備を行った。

(1) 「美術と風土——アーティストが触れた伊那谷」展の開催（共催）

会場：飯田市美術博物館・辰野美術館・碧南市藤井達吉現代美術館・白沙村荘橋本関雪記念館・豊中市文化芸術センター

会期：令和5年3月より10月まで巡回予定

(2) 「生誕130年・没後60年を越えて／須田国太郎の芸術——三つのまなざし」展の開催（共催）

会場：世田谷美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、西宮市大谷記念美術館、蘭島閣美術館、大分市美術館

会期：令和5年10月から令和6年8月まで巡回予定